

未来につなぐ幸せの手 600人超が来場



日本保健医療大学の公開講座と、幸手市PTA連合会啓発事業のジョイント講演会が12月2日(土)、幸手市北公民館レクリエーションホールで行われました。

テーマは「幸手市30周年から「成長のまち」へ未来につなぐ幸せの手」とし、会場には当初予定の定員400人を大きく超える、600人以上の観客が訪れました。

第一部では、日本保健医療大学の看護学科教授池田智子氏と、同大学理

学療法学科講師の旭竜馬氏による「世代をつなぎ未来へ伸びるまちづくり」講演が行われました。

幸手市の「めざせ！毎日1000歩運動教室」

の実施報告ほか、健康体操の自主グループの事など、誰もが心豊かに健康的に暮らせるまちづくりの話に、来場者らは真剣に耳を傾けていました。

第二部講演では「あきらめない子の育て方」と題して、東京大学野球部監督でA1西武学院塾長の浜田一志氏が、今年のドラフトで東大史上6人目のプロ入りとなった宮台康平選手の話や、努力や才能、そして「諦めない子」を育てる秘訣を伝えました。

街角フォト

幸手料理組合では11月17日、空気が乾燥するこれからの季節に合わせ、渡邊家(東4丁目)の駐車場にて消火訓練を

元出火原因は様々あるため、迅速な初期消火を行う為に、同組合では定期的に消防士指導の元、消火器の使い方など学んで

(2017年12月10日(日) タウンプレスよみうり 掲載記事)

埼玉

挑戦で自分見つけて

幸手東大野球部監督が講演

今秋、東京六大学野球で15年ぶりに勝ち点を上げた東京大学野球部の浜田一志監督が幸手市で「あきらめない子の育て方」をテーマに講演した。講演は日本保健医療大学と市PTA連合会が企画、市内の親子連れや野球部員らが聴講した。(保坂直人)

浜田監督は9年前に東大野球部の監督に就任。94連敗を喫した頃のチームの雰囲気を一先制しても、いつか逆転される。なれば指導者も親が用事する」とした。

六大学野球で東大が勝利勝ち点を挙げた成果を巡り「どれくらいですか。他の大学は甲子園経験者ばかり。東大生は7割が浪人生で、野球年齢は中学3年くらい。彼らは才能があるわけではないが、努力を続ける才能があった」と会場の笑いを誘った。

学習塾の塾長でもある浜田監督はチーム立て直しの経験と子どもの学力向上に向けた取り組みを結び付けた。「モチベーションを与えるのが指導者と親の役割努力を続け、習慣化させるようにしたい」と述べた。

「諦めない子について(子ども)は「家でも勉強して基本問題ができるレベルではなく友達に説明できるレベル。野球でも勉強でも、教える物の本質が分かるようになる」と強調した。

「諦めない子について(子ども)は「家でも勉強して基本問題ができるレベルではなく友達に説明できるレベル。野球でも勉強でも、教える物の本質が分かるようになる」と強調した。



講演する東京六大学野球部の浜田一志監督。幸手市国民府間の北公民館

(2017年12月12日(火) 埼玉新聞 掲載記事)